

## ブカチャーチャの想い出

横浜市 宮川 政治

私のシベリヤ捕虜抑留生活の五年間、バイカル湖の東でチタ市北方一〇〇軒附近の山中シヤーバルトイ伐採場収容所を皮切りに、五年間の収容所分所三〇ヶ所に及ぶタライ廻しの丁度中間位。昭和二十二年十月頃から二十三年三月頃の間の五ヶ月間位と思うが、ブカチャーチャ収容所に転送された。

ブカチャーチャ収容所の想い出は、私のシベリヤ捕虜生活五年間の内十分の一乃至十二分の一位の事ではあるが、部分的にかなり鮮明な記憶がある。

しかしそれは時期的には、ブカチャーチャの非常に悲惨な多数の犠牲者を出した初めの一年々一年半を過ぎた後で生き残った同胞が、何とか団結して立直り収容所内を次第に整備し、努力している時期であつたと思う。

従つて一本松の非常に残酷な話は私にとっては皆さんからお聞きしてさぞ大変な事であつたと身につまされた事であつた。之は七〇万々八〇万に及ぶシベリヤ各地に於ける日本人同胞の体験した事であり、私も初めの一々二年間チタ周辺の数ヶ所の収容所で同様の体験をしているのである。

私の捕虜生活中に最も苦勞したのは、昭和二十三年四月頃。ブカチャーチャからハバロフスクに転送され二十三ヶ所の周辺分所の内二十ヶ所をタライ廻しされ、重労働をして何回も栄養失調になつた昭和二十五年までの約三ヶ年間である。ブカチャーチャで初めから終り迄を過ごされた方達には申し訳ない事であるが、前述の如く当初の筆舌に尽せぬ惨苦の一応落着いた時期にブカチャーチャに転送された私にとつては当時一息ついた思いであつた。サウナ式のバーニヤの事。丘の食堂の事。ソ連ドクトルのミハイロフや目玉（註、ソ連の女軍医の渾名）の事等が目に浮ぶのである。

丁度その頃からソ連政府部員の策動による民主運動が熾烈になり、若いアクチブが養成され「我等が祖国ソ同盟の為に生産を増強せよ」「マルクスレーニン主義を学び、天皇島日本へ敵前上陸しよう」等々目の色を変えて同胞密告し、仲間同志で吊し上げのガワリーく、アジ、プロのわい ぐが盛んになつたのである。同調して何とか加担していなければ、食事も食べさせられない有様で、伸の良い友達でもうっかり心の内は見せられない状態であつた。

その様な或日の事。現在ヤゴダ会のお世話役をされて

いる池上弘氏も矢張り吊し上げを受けた様な記憶がある。

このソ連の採った洗脳教育は、ダモイ一心の日本人同胞にとって苛酷な強制労働と共に、最も我々を苦しめた誠に憎むに余りあるものであった。

ソ連という国の怖ろしさ、残酷な仕打ちは肝に銘じるものがある。記憶喪失の多い中で、ブカチャーチャの思い出は可成り鮮明なのである。世界中で日本程良い所は無いと云えるのではないか、そしていづれにせよ戦争の惨禍は二度とあってはならない事を痛感する次第である。